令和2年3月15日発行　2020年3月号　小淀ホーム広報誌　通巻78号

KOYODO HOME

寿楽 小淀ホーム

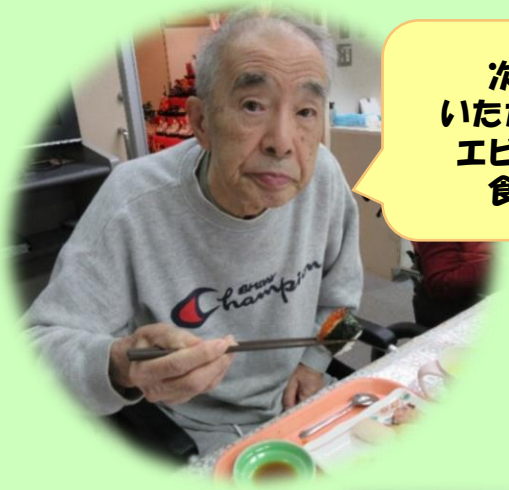
令和2年3月号

JYURAKU Since 1996

小淀寿司　開催！

大好きなマグロから
いただきます♪

小淀寿司では
食べ易い大きさに握った
ミニ握りも承ります！
こちらはマグロの
ミニ握りです。



次はエビを
いただこうかな♪
エビは尻尾まで
食べるよ。

楽しみに
していました☆
いただきます。

へい　おまち！
遠慮なさらず、
心ゆくまで
お楽しみください。

日清医療食品㈱
調理師

2/21（金）に小淀寿司を開催しました。
日清医療食品㈱ご協力の下、調理師が板前・栄養士が女将となり、年に3回小淀寿司を開催。調理師が目の前で握ったお寿司をその場でいただきます。
今回は6名様にご参加いただきました。
ネタはマグロ・鯛・サーモン・海老・イクラ・ネギトロ・玉子の7種類をご用意。お好きなネタを注文していただきました。
小淀寿司の一番人気のネタはマグロですが、今回は海老も人気で何度も注文が入っていました。

ひな祭り ♫

ひな祭りにお雛様を飾りました。
お雛様を見て「キレイねぇ」「娘のために毎年飾ったわ」など、感想を述べられていました。
御年101歳の方より「昔のお雛様はもう一回り大きかったのよ」と貴重なお話も伺いました。

吉野家・モスバーガーがやってきた ☆彡

バーガーにかぶりつく事が難しい方には、1/6サイズにカットして提供しました。「なかなか見ない珍しいものだわ」「すっごく美味しい」など、感想をいただきました。

吉野家

特製の丼ぶりはとても軽く、丼ぶりを持って豪快に召し上がっていました。「やっぱり美味しいわ」「お肉が軟らかい」など、感想をいただきました。

モスバーガー

日清医療食品㈱より、2/15（土）昼食に吉野家の牛丼、2/29（土）昼食にモスバーガーの提供をしていただきました。特製の丼ぶりやランチョンマットをご用意していただき、いつもとは違う雰囲気で食事を楽しんでいただきました。

【日清医療食品㈱職員からのメッセージ】
日清医療食品㈱は今年度より「日曜日の新しい食事のカタチ」として、当社を含む3社のコラボレーションによる特別メニュー「みんなの日曜日」の提供を開始しました。入所者様・デイサービス利用者様にも外食をしていた時の気分が感じられる楽しい日曜日をコンセプトに他社と共同で商品開発を行っています。来年度より参加企業が増え、バリエーションも多くなりますので、よろしくお願いいたします。
※本来は日曜日に提供するものを、日清医療食品㈱のご厚意により特別に土曜日に提供を行っていただきました。ありがとうございます。

デイサービスでSmile Up♪

楽しみながらのリハビリ活動　第2弾♪

機能訓練指導員が中心となって行っているリハビリ活動について、今回は『もも上げ運動』をご紹介します！
普段なんとなくやる運動も、どこを使うか意識するだけで効果が変わってきます。自宅で椅子に座って簡単にできますので、是非チャレンジしてみてください♪

良い例

背もたれに
背中を付けず、
背筋をピーン
と伸ばします。

もも上げの動きは
ゆっくりと。
無理のない範囲で
もも上げをして、
股関節を動かしま
しょう。

目線は
まっすぐに。

股関節の動きを
意識するため、
手を股関節に
置いてみるのも
良いでしょう。

脚は
ゆっくり
おろします。

悪い例

こちらは
悪い例です。

背もたれに背中を
つけると脚は高く
上がり、一見良さ
そうに見えますが、
これでは効果は得ら
れません。

背もたれに背中がつい
ている。
この状態で脚を上げると、
のけぞった様な状態とな
り、姿勢が悪くなります。

【もも上げのワンポイント・アドバイス！】

①動きは最初から最後までゆっくりと。
②自分が動かせる範囲で股関節を動かしましょう！

続けることが大切です！！

【デイ　機能訓練指導員・河西】

特養にて第三者評価を受けました

今年度も特養でのサービスのあり方を評価していただくため、第三者評価を受審しました。今後もより良いサービスを目指してまいります。全体の評価講評は以下の通りです。

特に良いと思う点

①利用者主体のケアを追求している

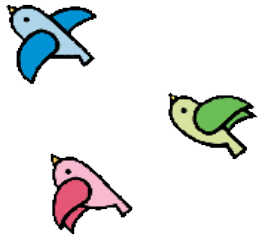
認知症になっても安心して暮らし続けられる地域の拠点になることを目指し、勉強会や日々の実践を通して、より良い認知症ケア・本人主体の支援を追及している。職員間の連携により不安の軽減を図るかかわりや、その方の心理状態と向き合うことで行動症状の緩和に努めている。

②事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成を図っている

併設のデイサービスとも連携することで、職員の育成を図っている。特養・デイサービス職員の互いの強みを生かすことで、双方のスキルアップにつながっている。

③家族やボランティアによる協力を日常生活の充実に生かしている

行事への家族の招待や、月1回のボランティアデーでの車椅子清掃等の協力等、日常的に交流・連携が図られている。家族が様々な職種の職員と接する機会が増え、信頼関係の構築にもなっている。



更なる改善が望まれる点

①利用者の夢の実現に取り組んでいく

その方らしい生き方ができるよう家族・本人からアンケート・聞き取りを改めて行い、一人ひとりのやりたいことに対し、家族と職員が一体となって準備・実行していく過程も重要。一人でも多くの夢が実現することを目指し、取り組んでいくことを課題としている。

②ホームページ等の一層の活用を図っていく

ホームページは見やすいようレイアウト変更をすることで、マイナーチェンジが図られた。今後は更新頻度の向上やSNSの活用等に取り組んでいくことを課題としている。

③業務改善に継続的に取り組んでいく

外国からの技能実習生を迎え入れることを機に、業務の標準化を定着させようと考えている。これは介護職未経験者を職員として受け入れる場合の教育にも有効。今後の業務改善においても、職員の意見を取り入れながら継続的に取り組んでいくことを課題としている。

詳細は、とうきょう福祉ナビゲーション（http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/）「福祉サービス第三者評価」でご覧いただけます。